

ウェルズ恵子 編

ヴァナキュラー文化と現代社会

A5判・336頁／定価：本体6,000円+税

ISBN978-4-7842-1933-9

<2018年4月刊行>

「ヴァナキュラー (vernacular) 文化」とは、ある集団の人々の生活に深く関連した文化と、特定の時期や時代や状況や土地で発生した文化、および、そうした文化の底流となっている伝統を指す。それは、〈権威をもたない文化〉であるとも言える。

その研究は、文化人類学・民俗学、文学、歴史学など——細分化すれば表象研究、地域研究、音楽文化研究、メディア研究、カルチュラル・スタディーズなど——の専門諸領域にわたる。ヴァナキュラー文化研究を牽引する日米の執筆者の論考も含んだ本書は、文化についての意識を高め文化研究をより身近にするための、指標となる一冊である。

■I 生成・創造

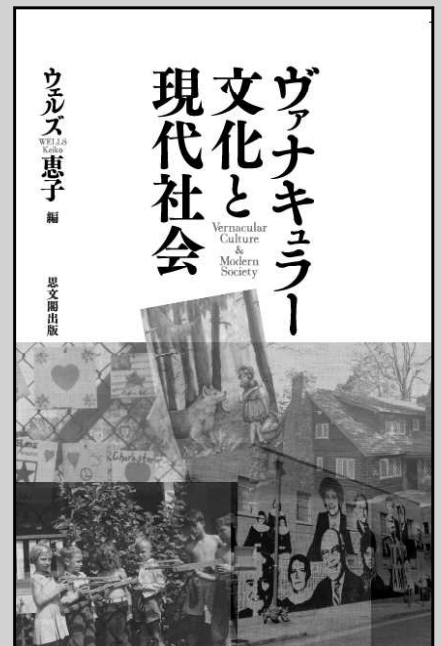
- 1 アメリカの文化における暴力と遊びのフレーム化
サイモン・J. ブロナー | 石田文字 訳
- 2 民衆による死の記念化
ジャック・サンティエーノ | 佐藤 渉 訳
- 3 日系アメリカ人強制収容とアンセル・アダムズの写真記録
荒このみ
- 4 医療現場のユーモアにみる苦しみと笑い
リサ・ギャバート | 中川典子 訳
- 5 アメリカ黒人民話にみる〈語り〉の深層——ハーストンの『驟馬と人間』考 ウェルズ恵子

■II 伝承・変容

- 6 ヴァナキュラー文化として「赤ずきん」を読む
ウェルズ恵子
- 7 人種暴力の記憶化と写真
坂下史子
- 8 遊牧民女性の技と記憶
江川ひかり
- 9 アバディーンシャーの歌い手たち
トーマス・マケイン | 山崎 遼 訳
- 10 ヴァナキュラーな消費文化の展開
関口英里

■III 拡散・再生

- 11 〈ヴァナキュラー〉の実践
小長谷英代
- 12 明治期日本におけるアメリカ音楽の受容
ソンドラ・ウィーランド・ハウ | 佐藤 渉 訳
- 13 スティーブン・フォスターとアメリカ
ディーン・L. ルート | 湊 圭史 訳
- 14 スティーブン・フォスターの生涯と日本への遺産
宮下和子
- 15 歌と言葉を取り戻すとき——失語からの復帰
ウェルズ恵子



思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel075-533-6860 fax075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	ヴァナキュラー文化と現代社会	本体6,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1933-9	
お名前	tel		本書HPのQRコード		
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

「千種」物語

二つの海を渡った唐物茶壺

竹内順一・岡佳子ほか編

13、4世紀頃に中国で生まれたひとつの壺が、東シナ海を渡って日本に伝わり、茶道具の名物「千種」となった。やがて21世紀にはもうひとつの海・太平洋を渡り、米国ワシントンDCにあるフリーア美術館(管理運営：国立スミソニアン協会)に収められた——唐物茶壺「千種」の歴史的な変遷を経系に、「千種」をめぐる多様な文化事象を緯糸に織りなされた、壮大な物語。日・米・中の研究者による、歴史、美術、考古学、科学などの多角的な分野を網羅した最新の研究成果を収録。

【内容】

唐物が茶道具になったとき(竹内順一)／唐物茶壺の展開(李寶平・栗建安)／唐物茶壺(西田宏子)／日本における唐物茶壺の考古学(井上喜久男)／茶壺の役割(大森正司)／「千種」について(ルイズ・コト)／16世紀の茶会記に記された「千種」の拝見記(竹内順一)／「千種」をめぐる名(アンドリュウ・ワツキー)／「千種」の口覆いについて(吉岡明美)／「千種」の口覆いと名物裂・富田金襴(佐藤留実)／染料(毛利千香・ブライス・マッカーシー)／「千種」の伝来と唐物茶壺(岡佳子)／野々村仁清作「色絵叭々鳥図茶壺」をめぐる(岡佳子)／17世紀以降の「千種」の伝来(熊倉功夫)／皓々齋宗也筆「茶壺紅飾雛形書」について(岡佳子)／「千種」と国際美術市場(ジュリア・ミーチ)

▶A5判・284頁／本体3,200円(税別) ISBN978-4-7842-1870-7

風俗絵画の文化学Ⅱ 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

風俗絵画とは虚実をうつす機知の媒体である。美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究。

絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」—虚実を往来する機微や感性の「かたち」—を明らかにしていく15篇。

▶A5判・450頁／本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1615-4

広告の夜明け 大阪・万年社コレクション研究

竹内幸絵・難波功士編

戦前・戦後を通して日本を代表する広告代理店である「万年社」。1999年の倒産までのおよそ100年間に、同社が収集した広告資料や文献などの「万年社コレクション」。本書は、主に同社の創業時から戦前までの紙媒体資料を用い、同時代の広告業界を様々な角度から活写する。

▶A5判・316頁／本体5,200円(税別) ISBN978-4-7842-1911-7

海賊史観からみた世界史の再構築

稲賀繁美編 交易と情報流通の現在を問い直す

文化交渉・交易全般における「海賊行為」を総合的に再検討することを目的とした、国際日本文化研究センター共同研究の報告書。

【内容】インターネット時代の知的財産権と海賊行為／剽窃・贋作・模造品の遊泳術／「大航海時代」再考／認知か越境か？／海賊の修辭学

▶A5判・852頁／本体14,000円(税別) ISBN978-4-7842-1881-3

パリ万国博覧会とジャポニズムの誕生

寺本敬子著

【好評増刷】

1867年、1878年のふたつのパリ万国博覧会を舞台に交差する国家の思惑、人と物。「アジア」のなかに埋没していた日本のイメージがしだいに像を結び、やがてジャポニズムという「熱狂」へと収斂していく。日仏両国の史料を駆使し、開催国フランス、参加国日本、パリの観衆、三者の相互作用を通じてジャポニズムの誕生を解き明かす。

▶A5判・370頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1888-2

※万国博覧会と人間の歴史

佐野真由子編

万博から、人間の歴史が見える！万国博覧会。それは、1851年のロンドンで始まり、今日まで連続と続いてきた。本書は、従来の研究の枠組みを超え、多様な領域の研究者のほか、万博をつくり、支える立場の政府関係者、業界関係者が集い、さらにアジア各国の研究者を迎えて、ともに議論を重ねた共同研究の成果である。

▶A5判・758頁／本体9,200円(税別) ISBN978-4-7842-1819-6

写しの力 創造と継承のマトリクス

島尾新・彬子女王・亀田和子編

二項対立的に「オリジナル」と「コピー」を捉え、模本を原本に劣るものとして考えるのではなく、日本美術における模写の伝統をさまざまな角度から再検討する試み。

【内容】

『Utsushi』から『写しの力』へ(亀田和子)／日本人画における間画像性と写し(ポール・ベリー)／文人理念と「写し」のジレンマ—小林竹洞筆『蘭亭図巻』を例として(亀田和子)／近代陶磁と特許制度—清風與平家から見た「写し」をめぐる京焼の十九世紀(前崎信也)／図像と写し—「伊勢物語絵」と俵屋宗達(ジョシュア・モストウ)／騎虎鍾馗の図像の伝承と変容(永田真紀)／室町水墨画における「写し」—図様と表現の観点から(畑靖紀)／富士三保松原図の図様伝播—狩野派を中心に(山下善也)／海を渡った法隆寺壁画—西洋における「うつし」の役割(彬子女王)／写しの文化における舞台表現の伝承(松葉涼子)／写しの文化—「オリジナル主義」再考(島尾新)

▶A5判・278頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1711-3

風俗絵画の文化学Ⅲ 瞬時をうつすフィロソフィー

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

「風俗絵画研究会」の文化学的探求の研究成果をまとめたシリーズ第3弾。風俗画の歴史的な実証に留まらず、描かれた事象に織り交ざる虚実を読み解くことで、鑑賞されることを意識した美的な演出や、儀礼や慣習から生じた絵の上での約束事や仕掛け、信仰のイメージや地域に根ざした特殊な世界観などといった、人間の営為そのものの原理を探究する、哲学的思考(フィロソフィー)へと解釈を広げた13篇。

▶A5判・434頁／本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1775-5

幽霊の歴史文化学 二松学舎大学学術叢書

小山聡子・松本健太郎編

人びとは幽霊をどう感知し、それを表象するためにいかなる工夫をしてきたのか、幽霊になにを求めたのか。歴史学、メディア学、文学、美術史学、宗教学、社会学、民俗学等さまざまな研究分野から日本人の精神世界の一端に迫る。

【好評増刷】

▶A5判・344頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1964-3

学問をしぼるもの

井上章一編

時局による言論の制約、マルクス主義の流行、はたまた所属学会への配慮や、恩師・先輩への気遣いなど煩わしい人間関係……。そんな学者たちの息苦しさの歴史を、科学史的に明らかにしようとして企画された国際日本文化研究センターの共同研究「人文諸学の科学史的研究」の成果。

▶A5判・384頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1898-1

布がつくる社会関係

金谷美和著

インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌

染色業者カトリート、その生産する布について民族誌的記述を行うことで、布を生産することによって構築される社会関係と、布の使用によって構築される社会関係について明かす。布を視点として社会を分析するという文化人類学的研究の新たな可能性を拓く意欲作。

▶A5判・330頁／本体6,200円(税別) ISBN978-4-7842-1341-2

明治博物館事始め [オンデマンド版]

椎名仙卓著

明治初期、近代化と博覧会ブームを背景に次々と誕生した博物館、その「正史」からはこぼれがちな興味深いエピソードを通して、明治という時代が鮮やかに甦る。巻末に「主要参考文献」「博物館変遷図」「明治博物館年表」を付す。(初版1989年)

▶A5判・268頁／本体4,800円(税別) ISBN978-4-7842-7002-6